

## 「リフォーム詐欺」甘い誘いにご用心 「今なら安く」無意味な補修繰り返す

最近は、コロナ関連の報道ばかりで、「振り込め詐欺」のニュースが少ないですが、ほとんど取り上げられてなく、大きな被害にあってるのが、「リフォーム詐欺」です。

私が弁護士から依頼を受けて、昨年相談に乗っている案件だけでも2件（瀬戸市で1件、豊川市で1件）あります。一昨年も1件（豊田市）あります。どの案件も1000万円を超える被害です。これに被害額100万円程度の「水漏れ修理詐欺」を加えると、大変な数の被害が出ています。

役員会から

●今月号は奥村さんに「かすがいシティバス」問題を書いていただいた。四季折々の花が美しい植物園や御岳山が望める弥勒山の登山口など人気のスポット。高蔵寺ニュータウン住民の自慢でもある。しかし、なぜかシティバスの路線から外されている。周辺住民からも、買い物の足などとしてバスの延長要望が出ている●しかし、単純な延長では、NTから市民病院に通院している方から「今でも途中で福祉の里に寄るため20分ほども遠回りしている。さらに寄り道は困る」との声もあるという。何とか両方が納得するコース設定はできないか。市の担当部局に知恵を絞っていただきたい●看板イベントである「どんぐり s カフェ」が、コロナ禍で再開の目途が立たず、役員会の議論も湿りがちだ。その中で「魅力ある高森山公園をつくる会」の活動が際立っている。昨年11月28日の「紅葉を見よう会」に続いて3月27日（土）に第2回の「ツツジを見よう会」を開催する。今回はUR都市機構中部支社から共催の申し出があった。着実に運動の輪が広がっている。（明賀 雄二）

ると思います。

リフォーム詐欺の特徴は、①訪問詐欺であること。1回目は本人が以前から気になっていることを、そこそこの値段で請け負う。そのついでに、住まいのいろんな箇所を無料点検し、「今すぐに直さなくても良いが、いずれ修理が必要になる」今なら安くしておくという甘い言葉で誘う。②その後何回も繰り返し、工事契約を重ね、気が付けば1000万円にもなっている。③修理の内容は、木が割れているから、カーボン纖維を張る=意味がない。基礎が割れているから、カーボン纖維を貼る=一部だけ貼っても意味がない。床下が湿気ているから乾燥材を撒く=湿気の原因から検討しないと意味がない。瓦の漆喰が割れているから、漆喰を直しましょう=屋根をふき替えられるぐらいの高額な価格になる。

④修理は、施工しやすい場所・箇所をしか行わない。⑤違う会社の名前で、再三再四訪問し、契約を行う。⑥慣れているので、法的に「クリングオフ」の制度が使えないように周到に工事契約準備をしているです。⑦もうお金が無いというと、リフォームローンを組ませる等々。その段階になって、親族（子供）に相談し、初めておかしいとなり、弁護士に相談することになる。

建築は、専門的なことが多いので、専門家（訪問する営業マンは、専門家ではないのだが）のような人に、いろいろ言われると、だまされてしまいます。「どんぐり s」は、一級建築士の専門家が、住宅相談を毎月行っているので、おかしいと思ったら、すぐにご相談ください。

（一級建築士・片山 繁行）

# 春日井市の「かすがいシティバス」植物園まで延長を

春日井市が運営する「かすがいシティバス」(写真)をご存知ですか。距離に関係なく料金は、大人200円、高齢者と子ども100円。高蔵寺ニュータウン(N T)方面は東環状線で、高蔵寺駅～中央台～市民病院～市役所～春日井駅～神領駅～高蔵寺駅が主な停車箇所です。しかし、年間31万人が利用する春日井市都市緑化植物園はコースから外されています。現在、5年ぶりに路線見直しが行われているのに合わせ、私は一部でも植物園にシティバスを延長してほしいと思っています。

調べたところ、路線見直し案では、一周2時間かかる東環状線を①東北部線(高蔵寺駅～NT～市民病院～市役所～春日井駅)と②東南部線(高蔵寺駅～神領駅～春日井駅～市役所～朝宮公園)に高蔵寺駅を基点に二分割する。本来、

私の朝・昼・晩

## コロナ禍で生き方を考える

今、仙台市の慈眼寺住職塩沼亮潤氏が注目されている。塩沼氏は過酷な千日修行(世界で2人目)を成し遂げたのだが、9日間の断食(不眠)では死臭が漂っていたというのだから、その過酷さのほどは想像を絶する。

先日、そんな塩沼氏が、テレビ司会者からコロナ禍の生き方を問われ、“あるがままを受け入れ、笑って生きること”と答えられた。私は、それを聴いた時、驚きとともに、かなりの違和感を持った。多数の感染者や死者が出ているこんな時に、笑ってなどいられるものかと。しかし、少し冷静になってその言葉の裏について考えてみた。多分、乗り越えるべき苦難に立ち向かうことは人として当然という前提での、個々人の日常の立ち居振る舞いを言っているのではないか。

しかめっ面していても幸せは訪れない。前向きに笑顔でいることの大切さを言っているのかな、と自分を納得させた次第。傘寿まで残り1年3か月。コロナと老いという2つの戦いにどう挑んでいくか、凡人の私には不安や悩みは尽きない。

(藤城 榮一)



新たに路線を増やす必要はありますが、少なくともこの東北部線のうち1日2、3本ほどでも利用客の多い植物園まで延長すべきであると考えます。市の主要施設(市民病院、市役所、公民館、道風記念館等)や公園(落合公園、朝宮公園、潮見平和公園等)には、シティバスが来ています。シティバスと路線バスを加えた1週間のバス発着回数は、落合公園530回、朝宮公園1363回に比べ、植物園は名鉄の路線バスのみで81回と極端に少ない。しかし、市の考えは「植物園経由は、路線が長大となり、課題である運転手の就業改善の面からできることになっている」とのことでした。

植物園周辺には、ハイカーに人気のある東海自然歩道や弥勒山、少年自然の家などがある。自然豊かな魅力ある観光地も、足となる公共交通が不便で利用されなければ宝の持ち腐れです。高齢化に伴う免許返納者の急増や深刻な周辺住宅地の買い物難民問題などを考慮しても、市の計画案には疑問が残ります。

(奥村 昇次)

## すまい困りごと無料相談

●電話または直接面接会場にお越しください  
☎080-5297-8956(長谷川)  
面接相談会日時:2月20日(土)、3月20日(土)  
(ともに13:30~15:30)  
会場:東部ほっとステーション  
(サンマルシェ南館1階)

## ハート・ほっと・ルーム

日 時:2月28日(日)、3月28日(日)  
(ともに13:30~15:30)  
会 場:東部ほっとステーション  
参加費:無料  
連絡先:☎090-6330-4393(浪川)